

1.17



イッテンイチナナカラ

これは、東北や熊本で復興支援に取り組んでいるものの、阪神・淡路大震災は経験していない世代である学生を中心に、震災の記憶や教訓を学び、感じ・考えたことや、現地での活動、震災をきっかけに生まれたつながりの大切さを発信し、地震との向き合い方を考えるイベント「イッテンイチナナカラ」をまとめた記録です。

2020.1.17 fri. → 19 sun.



JINS

LAIRFRAIS

JEANASIS

コール

FAVORI

BAG 全品 ¥3,000

1.17

2020.1.17

17

東北や熊本で復興支援に取り組んでいるもの。復興支援活動は継続している。東北や熊本で復興支援に取り組んでいるもの。復興支援活動は継続している。東北や熊本で復興支援に取り組んでいるもの。復興支援活動は継続している。

震災を “ジブンゴト”に

2020年1月17日で阪神・淡路大震災から25年が経ち、震災を経験していない・記憶がない世代が増えてきました。

この25年間にも、日本全国で大きな地震が起きています。

このたび、三宮センター街一丁目で、阪神・淡路大震災を経験していない世代でありながら東北や熊本で復興支援活動に取り組んでいる大学生を中心として、震災の記憶や教訓を学び、感じたこと・考えたことや、現地での活動、震災をきっかけに生まれたつながりの大切さを発信するイベントを実施しました。

大学生からこのような発信をすることによって、同じ世代が考えるきっかけを作り、併せて、震災経験者が新たな視点から振り返るきっかけが生まれればという想いで企画しました。

これを機に、地震対策についてあまり関心のない方にも地震との向き合い方を“ジブンゴト”として考えてもらえればと思っています。



2020年1月17日(金)～19日(日)の3日間、神戸三宮センター街1丁目にて、「1.17→(イッテンイチナナカラ)」を開催しました。当日は、パネル展示と模型展示、ワークショップを開催し、約8,700名の方に参加、観覧していただきました。

また2日間のトークイベントでは約100名の方にご参加いただき、学生と参加者のみなさまがお話をする機会をたくさん設けることができました。震災を経験した人、経験していない人、阪神・淡路大震災を知らない人、海外からの旅行者など、様々な

方が興味を持って参加してくださいました。

さらにセンター街のエイツビル前上部デッキにある三フストリートにも、学生が本イベントのために作成したロゴ案を展示したり、震災に関する本などの設置を行いました。

この「1.17→」を通して、震災に対する様々な想いや意見を直接聞き、今まで知らなかったことを知ること、学生自身も「ジブンゴト」として考えるキッカケを得ることができました。

TALK 1

大型スクリーン BOS が繋いだ気仙沼と神戸三宮センター街～震災のこと・伝えたいこと～

阪神・淡路大震災、東日本大震災当時のお話、また3名を繋いだBOSのお話をさせていただきました。後半は来場者が震災をジブンゴトにするにはどうするかを共に考える時間となりました。

ゲスト



(株)高橋工業
代表取締役社長
高橋 和志 さま



神戸・三宮センター街
一丁目商店街 振興組合
副理事長
植村 一仁 さま

MC



神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 准教授
槻橋 修 さま



TALK 2

1.17→(イッテンイチナナカラ)～わたしたちが伝えたいこと～

本イベントに関わる学生の取り組みや、イベントにまつわるトークを行いました。イベントに関わるきっかけや印象に残るエピソードを通じて、参加者にジブンゴトとはどういうことかを伝える時間となりました。

登壇学生

「失われた街」模型復元プロジェクト
今津 寛知・不動 栞里

神戸芸術工科大学
喜多川 颯馬・藤高 秀蔵・石川 千夏

神戸大学持続的災害支援
プロジェクト Konti
伊庭 駿

MC

Kiss FM KOBE サウンドクルー TVアナウンサー
川田 一輝

神戸芸術工科大学 助手
井上 小矢香



STUDY 1

Konti meets 1.17

1995年1月17日、あの日から今日まで積み重ねられてきた25年間。神戸が経験し、そして蓄積してきた阪神・淡路大震災の歴史を振り返りながら、私たちの周りを取り巻いている様々な災害について「何ができるのか」を考えました。

ゲスト



兵庫県立大学減災復興政策研究科研究科長・教授
室崎 益輝 さま



STUDY 3

“都市”という観点から見る阪神・淡路大震災 ～震災のこと・伝えたいこと～

阪神・淡路大震災の復興の財源に、そして復興住宅の供給先として、UR都市機構と共に始まった、舞子ゴルフ場跡地を住宅地として建設する「ガーデンシティ舞多間みつつけプロジェクト」の取り組みを通して、震災前後の“都市”はどう変わったのか。

また、阪神・淡路大震災を経験する前後で、自分自身の心境や考え方に変化はあったのか。その経験から、震災大国で生きていくために若者に伝えたいことをお聞きしました。

STUDY 2

Konti meets HOME

多世代多国籍、さまざまな人々が集う介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」にて、はっぴーの家の歩みを紐解きながら、これからの人と人の交わりについて、聞いて、見て、感じる体感型の講演会を行いました。

ゲスト



株式会社 Happy 代表取締役 はっぴーの家ろっけん住民
首藤 義敬 さま



ゲスト



神戸芸術工科大学 学長
齊木 崇人 さま



運営メンバー紹介

「失われた街」模型復元プロジェクトを行っている神戸大学槻橋研究室と、熊本地震以降、現地での活動を続けている神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti(コンティ)、また、空間デザインの担当として、三宮センター街の三フストリートに携わっている神戸芸術工科大学の3団体の学生で構成されたチームで運営しました。

団体紹介



「失われた街」 模型復元プロジェクト

地震や津波で失われた街や村を1/500の縮尺の模型で復元し、地域に育まれてきた街並みや環境、人々の暮らしの中で紡がれてきた記憶を保存・継承していくことを目指すプロジェクト。



神戸大学持続的災害支援 プロジェクト Konti (コンティ)

災害支援をきっかけに、地域の人とともにするまちづくりを目指すサークル。これまで熊本36回、岡山15回、宮城4回の活動や、神戸で13回の講演会に取り組みました。



神戸芸術工科大学

環境デザイン学科とプロダクト・インテリアデザイン学科の学生で構成されたメンバーは、自分の専門分野を超えて神戸の事を考え、街中に豊かな空間を創ることを目指しています。

メンバーの感想



神戸を知って、神戸のことがもっと好きになりました!

神戸芸術工科大学 藤高 秀蔵 (20歳)



震災について学び、減災、防災のコレからを考える良い機会になりました。

神戸芸術工科大学 澤村 大知 (20歳)



自分の夢を追いかけるのに避けては通れない事実があると再確認することができた。

神戸芸術工科大学 喜多川 颯馬 (22歳)



震災を経験した人から生の声を聞くことができて良かったです。

神戸芸術工科大学 石川 千夏 (20歳)



多くの方に出会い、お話を聞くことができても良い経験が出来ました。

神戸芸術工科大学 原口 千夏 (19歳)



震災への向き合い方は人それぞれ、正解はないということを実感しました。

神戸大学 槻橋研究室 不動 栞里 (22歳)



震災をジブンゴトにする難しさと、自分から知ろうとする意識が大切だと実感しました。

神戸大学 槻橋研究室 川端 梨紗子 (23歳)



震災を学ぶだけでなく、学びを伝えていくことが大事なんだと改めて気づきました。

神戸大学 槻橋研究室 今津 寛知 (24歳)



「震災をジブンゴトに」のありかたは、更新しつづけるものなんだと気づいた。

神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti 伊庭 駿 (23歳)



誰もが自分なりに震災との向き合い方を考えることが大事なのだ学びました。

神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti 田口 春香 (19歳)



1.17→(イッテンイチナナカラ)

2020年1月17日→19日

主催	神戸市 建築住宅局 建築指導部 耐震推進課
共催	神戸大学 減災デザインセンター 神戸芸術工科大学
協力・会場	神戸・三宮センター街一丁目商店街振興組合
コーディネート	井上 小矢香
デザイン・制作	すみかずき(KEYDESIGN)
写真	其田 有輝也
映像撮影	神戸芸術工科大学 曾和研究室
グラフィックレコーディング	中塚 優音
空間デザイン	神戸芸術工科大学 喜多川 颯馬・藤高 秀蔵・澤村 大知・石川 千夏・原口 知夏
トーク企画	神戸大学持続的災害支援プロジェクト Konti 伊庭 駿・田口 春香
模型ワークショップ	神戸大学槻橋研究室 今津 寛知・不動 菜里・川端 梨紗子

